「住吉の語り部となりたい」　シリーズ第８回

料亭つたも主人・深田正雄

2011 年 11 月 25 日

鬼平犯科帳「妖盗葵小僧」は若宮八幡社出身？？

11 月 3 日昼過ぎに若宮の副野宮司より携帯に電話があり、東京の病院長が若宮八幡社と小僧について知りたいと突然訪問されているので、小生に会って欲しいとの連絡。我孫子東邦病院の松本英亜先生がわざわざ来名され池波正太郎の小説持参でお話を伺いましたので、ご紹介させていただきます。やはり歌舞伎・浄瑠璃・見世物のメッカは若宮八幡社であることを認識した次第です。

ウィキペディアによる史実における葵小僧：

寛政 3 年（1791 年）の頃、徳川家の家紋である葵の御紋をつけた提灯を掲げて商家に押込強盗を行い、押込先の婦女を必ず強姦するという凶悪な手口をもって江戸中を荒らしまわったが、火付盗賊改方の長谷川宣以（平蔵）により板橋で捕らえられた。普通の取調べなら被害者からも供述を取って処断するところであるが、強姦された被害者の苦痛を慮り、平蔵と老中の専断により捕縛後 10 日ほどで獄門にかけられた。

池波正太郎原作の鬼平犯科帳第 2 巻 4 項に『妖盗葵小僧』が登場：

生い立ちは葵小僧の本名は桐野谷芳之助といい、尾張の生まれで人気役者紋十郎の息子。若宮八幡社にて小屋がけする小野川一座の親子タレント、国性爺合戦（コクセンヤガッセン）が話題であったとのこと。芳之助は大須の旭廓の常連でもあったようです。

役者の道を歩んでいたが成長する次第にその低い鼻が災いして役どころも人気も落ちてしまい、両親も亡くなって女遊びをしても容貌を馬鹿にされるばかりで女がつかず、挙句に気に入った茶汲女「しのぶ」に金を搾られて捨てられたために殺害して逃亡、その折に盗賊・天野大蔵に拾われて盗賊稼業に足を踏み入れることになった。

まあ、史実はともかく池波正太郎も住吉の伝統芸能や文化について大いなる認識があったようで嬉しい限りです。詳しくは文春文庫・鬼平犯科帳第 2 巻 4 項 185 ページからをお楽しみ下さい。

住吉神社石柵寄進者より

くに平：界隈でナンバーワン**おでん**専門店。一本ヒノキのカウンター、そして、「素だね」を大切継続していく独特のおでん鍋の味わいで一世を風靡した名店です。おばあちゃんが元気な頃は、夕刻から出汁の香りと新内やギターの流しの音色が住吉名物でした。
今は木造 2 階建ての建築は残したまま「タジン鍋の創」というレストラン。後継の甥の森島さんは大手居酒屋チェーンの幹部として活躍中！

石橋敏子：蔦茂の隣地で戦後から「いづみや」という下駄屋さんと煙草屋さん。下駄の時代が終わりお菓子や雑貨を販売、ちょっとしたコンビニ感覚で住吉の水商売女性には重宝されるお店でした。タバコの番台には通称「チーチ」という敏子叔母さんが鎮座して一丁目のよねちゃんと双璧姉さまでした。同居していた甥の木下明君は小生と白川幼稚園から同級生、おぼっちゃまでは体験できないお遊びなど随分お世話になり、いつも蔦茂の祖母に叱られていたようです。敏子叔母様引退にともない当店が平成 17 年 3 月取得、現在は株式会社ヨシックスに賃貸して「全品 280 円均一・ニパチ」として盛業中。ニパチが廉価居酒屋の契機となり“住吉 280 円戦争”が勃発して話題となりました。地下にはバッカーノというバーが入居して早朝まで賑やかに営業されています。

株式会社間瀬商店：住吉 3 丁目つたもパーキング跡地、記憶によれば大手の繊維屋さんで社員さんが数名住み込みにて生活されていたようです。廃業にともない、蔦茂の父がアメリカ村土地返還により八百屋町にあった土地を売却して、間瀬さんの物件を取得しました。八百屋町の蔦茂旅館は明治初期よりあったようで、大正 2 年に住吉店取得とともに自宅と従業員宿舎として戦前は活用、戦後は進駐軍に接収されており昭和 34 年に返還されたと聞いています。間瀬さんのお宅はそのまま蔦茂板場社宅を経て、解体後は駐車場、そして、２階はスローフード協会会長も務める橘秀希さんに賃借「オーダーバイキング鉄」として盛業中です。

住吉社・北側石柱：くに平、石橋敏子、株式会社間瀬商店